

世代別・職業別タウンミーティング(要約)

テーマ：ボランティア活動を通じた福祉について

平成27年8月5日(水曜日)

【市長】 皆さんこんばんは。今日のタウンミーティングは福祉分野ということでさせていただきます。今日、皆様お疲れのところお集まりいただき本当にありがとうございます。まず、このタウンミーティングのご説明からさせていただきます。私、就任させていただいてからタウンミーティングを開催しようと思っていました。それはなぜかというと、皆さんが市役所にお越しくくださるのを待っているほうが楽です。でも、果たしてそれでいいのでしょうか。そうじゃなくて、我々が皆さんのところに出向いて行って、そして声を聞かせていただこうと考えたからです。まず、松山市版のタウンミーティングは地区別のタウンミーティングから始めました。松山市は旧松山・旧北条・旧中島を合わせて41地区に分かれます。その地区ごとに開催して、我々が出向いて行って声を聞かせていただき、魅力は伸ばす、課題は減らす、タウンミーティングを重ねていきました。市長の任期は1期4年、月に直すと48カ月ですから、41地区を1カ月に1地区の割合で回っていこうと考えていました。この松山市版のタウンミーティングは聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしないのが特徴です。この場で出た意見・事柄に対して、できるだけお答えをして帰ります。中には国と関係をする案件、また県と関係をする案件、財政的な問題があるものもあります。そういったものは、いい加減な返事をして帰るわけにはまいりませんので、いったん引き取らせていただき、1カ月を目処に必ず返事をするという、やりっぱなしにしない聞きっぱなしにしないタウンミーティングをやってまいりました。おかげさまで好評になりましたので1巡り目は41地区を2年2カ月で回り終えまして、結局1期4年の間に2巡り地区別をさせていただきました。2期目に入らせていただいて、今度は地区別に加えて世代別のタウンミーティングをやろう、職業別のタウンミーティングをやろうという思いが、今日の福祉ボランティアにつながったというわけです。世代別では例えば子育て世代の方々に集まっていたら子育て世代の方々の声を聞かせてもらおう。また、学生さんを対象に今年2月には松山大学さんで、5月には愛媛大学さんでもやらせていただきました。今後はシルバー世代、おじいちゃんおばあちゃんのタウンミーティングをさせていただこうと思っています。職業別では農業分野の方々とか、商店街の方々に集まっていたら、これもさまざま考えながらやっていこうと思っています。今日は福祉分野でのタウンミーティングですが、

ぜひさまざまな観点から、有意義なタウンミーティングになればと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

【司会】 本日の趣旨説明について市長よりご説明申し上げます。

【市長】 今回のテーマは、福祉に関することで、特にボランティアということにさせていただきました。これからつながりのある社会をつくることから話をさせていただくと一番わかりやすいのではないかなと思います。今日は大学生の方々も来られてありがたいと思うのですが、子育てにしても、若いお父さんお母さんのつながりがなくて、自分たちで抱えるようにして子育てをするとしんどいと思います。でも、周りの方がちょっと声をかけてくれたり、ちょっと手助けしてくれたりすると子育ても助かると思います。また、防犯の面でも昔は井戸端会議がありました。井戸端会議で色んなことを話すと、つながりができます。でも、例えばマンション住まいで、「隣は何をする人ぞ」という状態だったら、防犯面のつながりもないわけです。「最近ちょっと見慣れん人が昼うろうろしよるよ、空き巣狙いじゃなかろうか、ちょっと施錠に気をつけないかんね」みたいな井戸端会議もあるかもしれません。子育てにしても介護にしてもそうですね。重篤な患者さんはそうはいかないかもしれませんが、「おじいちゃん寝よって私ちょっと買い物行こうと思うけん、ちょっと見よってくれる？」というご近所の方と話ができれば助かると思います。そういうつながりのある社会を目指していきたいと思います。そういう中でボランティアをしてくださる方がいるのかいないのか、ボランティアの意識をこの松山で調整していくことができるのかできないのかというのはすごく大きなところだと思います。私の2期目の公約で、幸せ実感の柱を挙げているのですが、一番最後のところに結びの幸せ実感に「幸せ実感都市まつやま」を目指していきましようというキャッチフレーズを掲げていて、「市民主体・連携で幸せ実感」を掲げています。まちづくりは行政主導でやるのではなく、市民の方が主体になってやること、市民の方と連携してやるのが大事だと思っています。特にこれからはボランティアの存在が大きいと考えますので、今回は専門的なテーマになってしまいますが、福祉ボランティアというテーマ設定をさせていただきました。今日来ている職員は、タウンミーティングの統括と、福祉の各分野の専門家ですのでまず自己紹介をさせていただきます。市民部長から申し上げます。

【市民部長】 市民部長の唐崎と申します。このタウンミーティングのほか、地域での住民主体のまちづくりや、男女共同参画、人権啓発、市民相談、その他市民課および支所の業務を担当しています。どうぞよろしく申し上げます。

【保健福祉政策課長】 保健福祉政策課長の野本と申します。保健福祉政策課は保健福祉部の取りまとめ課です。国民健康保険や、後期高齢者医療、保健所、福祉事務所などを統括しています。直接の事業は、少子化対策のための婚活事業を今年度から担当しています。よろしくお願いいたします。

【高齢福祉課長】 皆様こんばんは。高齢福祉課長の山岡と申します。この4月から高齢福祉課長を拝命いたしまして、高齢者福祉に携わっています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【障がい福祉課長】 障がい福祉課長の兵頭と申します。今日はよろしくお願いいたします。当課では障がい者に対する手帳の交付や障がい福祉サービスの提供など障がい福祉業務に携わっています。よろしくお願いいたします。

【保健予防課長】 保健予防課長の花山と申します。どうかよろしくお願いいたします。私どもは精神保健業務、感染症対策業務、予防接種業務などの業務を担当しています。本日はどうかよろしくお願いいたします。

【市長】 この前に並んでいるメンバーは専門家ですので、私が教えていただくつもりでいます。今のボランティアの現状や、ご意見をいただければと思います。こうやってもらったほうが、市民の皆さんももっと参加しやすくなるのか、市で色んなことをやっているのだろうけど、ちょっとまだわかりにくいからこうしたほうがいいのか、そんなご意見もいただければと思います。今日1時間半終わった段階で、いい意見交換になったと思えるようなタウンミーティングにしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【男性】 老人ホームを経営しています。我々は小さい施設ですが、年間で55団体、1,500人ぐらいのボランティアの方にお世話になっています。多分こちらにいらっしゃる方も老人ホームの施設に来られていると思いますので、団体を代表してお礼を述べさせていただきます。ありがとうございます。私ども老人ホームの職員は、松山市でも数万人いると思いますが、我々もボランティアを受けるだけではなくて、例えば、職員のほうが地域福祉やまちづくりとか人づくりなど、市長がおっしゃっているつながる社会づくりに逆に貢献したいと思っています。松山市から、福祉施設の職員にこういうボランティアをしてほしいとか、ご希望とか協力依頼とかありましたら、早速取り組んでいきたいと思っておりますし、業界にも働きかけて、そういう動きをしていきたいと思っておりますので、ご希望をぜひお聞かせいただければと思います。

【市長】 松山市として、こういうボランティアをしてほしいという希望があればという大変ありがたいご意見ですが、担当からこういうボランテ

ィアをしてほしいという希望をどんどん言わせてもらったと思うのですが、どうでしょうか。

【保健福祉政策課長】 各施設の方は地元で根ざした活動ができますので、地域の方ではボランティアとしてご協力いただきたいことがいっぱいあると思います。地域との連携を図って、施設の方も地域へ出て行き、地域の方も施設に行ってもらって、良好な関係を持ちながら、いい方向に持ってってもらえたらと思います。

【高齢福祉課長】 ボランティアしてほしい方にもいろいろなニーズがあり、ボランティアをしたいという方にもこういうボランティアをしたいというお考えがあるかと思います。そこで、ボランティアがほしい、またボランティアがしたいという調整をし、お互いのニーズをつなぐことが、今後重要になってくると思います。ぜひそのニーズの結びつけ方を検討していきたいと思います。

【市長】 ボランティアセンターのことについて、述べておくとわかりやすいかもしれません。もう皆さんはご存知だと思います。松山市のボランティアの窓口になるのは、ボランティアセンターで、松山市社会福祉協議会が設置しています。ボランティアセンターがどこにあるかご存知ですよ。

【男性】 場所ですか。目の前です。

【市長】 そこですね。皆さん、これはご存知ですよ。477の団体と2,146人の個人が登録しています。ボランティア活動に取り組んでくださっています。福祉分野があったり、環境の分野があったり、国際交流の分野があったり、多様なボランティア活動の総合センターです。松山市では、引き続き運営を支援していきます。主な事業として大きな柱が5つあります。まず、情報収集機能、また情報提供機能です。さまざまな分野で、ボランティア活動の総合的な情報提供を行っています。さまざまな相談に応じるために、多様な団体の概要や行政の市民活動に関する策など、情報の収集と蓄積に努めています。2つ目の柱として、相談・コーディネート機能です。ボランティアがしたい、ボランティアがほしいなど互いのニーズをつなぐ仕事をしています。そして、3つ目は調査・研究機能です。活動状況の把握や活動を推進するための羅針盤の働きをする調査研究活動を行います。その結果を事業に反映できるよう努めています。4つ目は、研修・学習機能です。初めての人でも参加できる福祉・定期講座があります。例えば、手話、点字、朗読や悩みなどに耳を傾ける傾聴ボランティア養成講座、災害ボランティア養成講座です。専門性を高めるための各種講座も開きまして、多様な研修の場を提供しています。5つ目の最後の柱は

連絡調整・ネットワーク機能です。個人や団体、NPO、企業、行政など相互の交流を促しまして、ネットワークの拡大を図るといふ、大きく5つの働きがあります。ほかに、どういふボランティアをしてもらったら、行政としては助かりますか。

【障がい福祉課長】 平成29年に、全国障害者スポーツ大会があります。愛媛県では、手話の奉仕員として、およそ300人、あるいは筆談でも200人、要約筆記でも100人という人が必要です。これからその養成に県も取りかかっていますので、ぜひその裾野を広げるところで、取りかかっていたいただければと思います。

【保健予防課長】 精神保健業務を担当していますが、ボランティアの皆さま方には、本課の事業にもご協力いただいています。精神障がいの方々のことを理解していただけるよう、ボランティアもお願いできたらと思っていますので、ご意見等いろいろいただきながらこちらも支援していきたいと思っています。どうかよろしくお願いします。

【市民部長】 行政に対するものではないですが、住民主体のまちづくりを所管している市民部からのご提案といふかお願いします。各地域の公民館や町内会が行っている文化祭やお祭りなどでは、参加者や協力者を求めていると思いますので、ぜひ地元の町内会などにお話をさせていただいて、地元貢献のボランティアとして参画いただきたいと思っています。

【市長】 このテーマに、時間を取らせていただいています、皆さんからこういうボランティアだったらできるよといふのがありましたらお願いします。

【女性】 今、公民館や地域での集まりとか行事があるとおっしゃいましたが、そういうところで私は要約筆記の関連の活動をさせていただいています。そこで、公民館やいきいきサロンなどで、「携帯ホワイトボード」を奨励したいなと思っています。皆さんは、携帯電話はご存知ですけど、これは紙でできています。ペン1本あれば、ここで書くことができますし、消すこともできます。これを町内の活動の中で生かしていただけると、耳の不自由な高齢者の方々も参加することが楽しくなると思います。どなたかが書いてくれるので良くわかる。サロンなどに行きたいけど、ちょっと耳が聞こえにくくなったりすると途絶えます。ホワイトボードをつくってこれを活用しましょうといふ運動を広めていきたいと思っています。

【市長】 手にとらせてもらってかまいませんか。

【女性】 そのために持ってきました。こういう活動は、大街道で10月に行われる「みんなの生活展」のときにも広めています。それともう1つは、今、松山は道後温泉で観光都市としてすごくクローズアップされてい

ますので、ホテルのフロントなどに筆談しますなどと書いて、この携帯ホワイトボードを置いて、全国から来られた方におもてなしを広めていきたいと思っています。ボードの表紙は、お菓子の包装紙などを使っているわけですが、これらのことを観光組合の方にお話しをしたら、ホテル関係のボランティアをされている方から、ホテルで使わなくなった浴衣を表紙にしてはどうでしょうかという案もいただいたんです。

【市長】 ありがとうございます。これは、何という名前ですか。

【女性】 「携帯ホワイトボード」です。ポケットにも入ります。

【市長】 これだと、こういうことを話していらっしゃるのよとか、筆談ができるからいいですよ。サイズのいいなと思いました。ちゃんと消えますね。これいいなと思いました。市役所としては、こういうものってどうですか。

【障がい福祉課長】 携帯ホワイトボードを、私もつくったことがあります。当課の窓口にもいくつか置いて、要約筆記とはいかないまでも、筆談をするときに使用していますし、非常に便利で簡単につくれてお金がかからないものだと認識しています。平成28年4月、障害者差別解消法が施行になります。それに向けて、今言われた筆談など、障がいの特性に応じた対応が今後義務化され、市民の方にも法律の周知が必要になりますので、ホワイトボードだけではないと思うのですが、取り組みはできる限りしていきたいと思っています。

【市長】 私が個人的にやりたいと思っているのですが、松山城登山の「かごやさん」ができないかなと思っています。松山にとって観光は大事です。松山市では、8割近い方が第3次産業に従事していらっしゃって、サービス、観光業などの産業が基幹産業です。平成27年に松山城は「行ってよかった日本の城ランキング」で2位になりました。これからますます高齢化社会を迎えるのですが、おじいちゃんおばあちゃんになっても、松山城にできたら上がってほしいと思います。ロープウェイ、リフトまでは上がれるけれども、「足が痛いけん、私はここで待っとらい。」という声や、逆にロープウェイ・リフトにも乗らずに、「私は、下で待っとらい。」という声も聞いています。天守の中は昔の建物なので階段が急でなかなか難しいかもしれませんが、できればそのような方にも上っていただきたくて「かごやさん」ができないかなと思っています。金毘羅さんには「かごやさん」があります。就任当初からいろいろ言っているのですが、全国どこにでもあるわけではなくて、なり手の確保が難しいんです。これをボランティアでお願いすると、乗客が怪我した場合の補償をどうするかとか問題がありますので、おそらくビジネスモデルをつくらないと無理だろうなど

思って、いろいろと動いているところですが、皆さんのお力をできる範囲で貸していただいて、皆さんの笑顔につなげていきたいなと思っています。ほかの方からの意見もいただきましょうか。

【男性】 松山市聴覚障害者協会で活動しています。先ほどホワイトボードとか筆談のお話があり、すごく嬉しいなと思いました。行政関係の色んなセンターや公共の施設はたくさんありますが、そこではいつも「筆談します」という表示が見受けられます。また、市のセンターとか伺ったときにはこういう「耳マーク」があります。公共施設では「耳マーク」が色んなところに貼ってあるのですが、行政以外のところでは表示がありません。例えば、デパートやコンビニなど皆さんがよく行かれるところに提示がされていません。どうして貼っていないのか理由が私にはわかりません。行政や福祉の関係の方は「耳マーク」はよくご存知だと思うのですが、商店街や市民の皆さんがよく行かれるデパートのようなどころにはありません。ボランティアの意識もないのかなと残念に思うこともあります。福祉に携わる皆さんから、デパートとかコンビニとかスーパーにお話をさせていただいて、「耳マーク」の表示など障がい者への対応方法の情報提供をしていただきたいと思います。先ほど高齢化というお話がありました。これはどんどん進んでいくと思います。そういう方たちも筆談がいいのではないのでしょうか。それからコンビニなどは24時間ずっと開いていますし、今、コンビニの店舗数はとても増えてきています。コンビニは夜中でもどんな時間でも、場所も近くて、24時間いつも人がいる。もし何かあったときに、例えばコンビニに耳マークが貼ってあれば、筆談などの対応をしてもらえるのかなと私も安心してその店に行くことができたり、簡単な会話だったらできるのではないかと思ったりもします。例えば災害時もそうです。それ以外の車の事故もそうですが、何か助けていただきたいと思ったときに、コンビニなど24時間開いているところに、耳マークで対応をしますよという表示を貼っていただくと、大変安心できます。手話通訳さんにも日頃から私たちに協力をしてもらっていますが、急に何かちょっとしたことでお願いするとなると、なかなかそれは難しい面がたくさんあると思います。コンビニなど24時間人がいて必ず開いていますから、1つのポイントになるのかなと感じています。それと、手話を勉強されている小学校も増えてきています。教育の方は、今日はいらっしゃらないと思うのでちょっと残念ですが、手話を勉強されている小中学校の方もたくさんいらっしゃると思います。それから障がい者関係の勉強をしてくださっている方もたくさんいらっしゃると思うのですが、勉強をしてもそれで終わっ

てしまって次につながらないということも感じております。そこで、学校の子どもたちがよく通る通路とかに、ポスターのようなものを掲示して、子どもたちが自然に目に触れて日頃からずっと見ておいて、強制的に教えるというのではなく、「障がい者の方の対応はこうしたらいいのか」とか、障がい者の方に対するポイントなどを自然に理解できるポスターやアニメを利用すれば、次の活動につながるのではないかと考えています。松山市ではアニメをつくっていらっしゃるんですよね。そういうアニメを利用して、学校内にそういうものが常に貼ってある状況づくりができないでしょうか。その2点です、よろしく申し上げます。

【女性】 松山市ボランティア活動体験学習研究会をしております。福祉教育で小中学校などへ行かせていただいています。私は、常々子どもは社会の宝だと思っています。そして、幼少期や児童・生徒の時期にきっちりとした福祉教育が必要だと思います。先ほどお話を聞いていると、全国スポーツ大会などではかなり聴覚障がいの方への対応を一生懸命考えられているようですが、それ以外の障がいもたくさんあります。視覚障がいであったり身体障がい者であったりします。平成29年のスポーツ大会だけではなく、先を見通すと幼少期や児童・生徒期にきちんとした算数や国語を学ぶのと同じように、聴覚障がいであったり視覚障がいであったり身体障がいであったりする人への対応を、パンフレットとかポスターとかではなく教育のカリキュラムの中に取り組みでいただいたら、それは大きく花開くと思います。そのような教育をこれからしていただきたいなと深く思います。たくさんお願いごとはあるのですが、私の目指す大きな平和な、人々を思いやる社会をつくることは、まずは子どもから始まると思っていますので、この点に関してぜひよろしく申し上げます。

【市長】 はい、わかりました。デパートやコンビニでの話がありましたけれども、今、松山市はコンビニさんと連携した取り組みをしていますので、お話ができないかどうか早速あたってみたいと思います。実は就任させていただいた頃、ほんの少しだけですが、手話でコミュニケーションができたときにすごく嬉しかったのを覚えています。もう少しできないかなと思って少しずつ頑張っていますが、コミュニケーションがとれるとものすごく嬉しいので、そういう人を増やしていければなと思っています。先ほど教えていただいた携帯のホワイトボードもその1つの方法だと思いますので、デパート・コンビニについてはちょっとあたらせていただいたらと思います。ただ、何でコミュニケーションができたら嬉しいのに、世間全体に広がっていないのかと思います。松山だけの話でなくて日本全体の話なのでここが難しいところだなと思います。それと教育についてお二

人からお話がありました。そういう雰囲気醸成していくには将来を担う子どもの教育がすごく大事だなと思います。これも新たな仕組みもできていますので、総合教育会議で取り上げさせていただいたらと思います。

【高齢福祉課長】 高齢福祉課の山岡でございます。ご意見ありがとうございます。実は福祉体験学習事業を松山市社協さんでやっていただいています。こちらについては、小さいうちから障がいに対する理解、高齢者に対する理解を目的としまして、車いす体験や手話体験、点字体験、ガイドヘルプ、高齢者疑似体験、要約筆記体験などを市内の各小中学校でやっています。ちなみに平成26年度は、小学校は38校で6,735名、中学校は11校で1,126名の方に受講していただきました。今後も引き続きさらなる理解の促進を目指しまして継続していきたいと考えております。

【市長】 びっくりしたのですが、思い違いかもしれませんが我々のときはそういう教育は受けていないと思います。今はかなりの人が受けているんですね。どういう受講内容ですか。

【高齢福祉課長】 障がい者や高齢者にやさしいまちづくりを目的として、車いすの体験をしたり、手話の体験をしたり、シニアセットという体に乗る高年齢者疑似体験、そして要約筆記体験を行っています。

【市長】 はい、わかりました。

【女性】 私ども手話サークルでは、松山市の4校の学校でボランティアとして手話を教えています。今は、4校だけなので、もう少し色々な学校で広がっていく方法を教えていただきたいと思います。また、ボランティアを始めたいという方もたくさん松山市にいらっしゃると思いますが、その中でどのようにしてボランティア活動をしていったらいいのだろうかということ。そして、ボランティアセンターが核となつていろいろ研修を行ってくださっていますけれども、子どもに対してボランティアって何、福祉って何ということをもっと広げていく研修会をしていただくことと、ボランティアに興味がある人に対してのボランティアセンターからの呼びかけとか研修会がもう少しあれば、福祉って何、ボランティアって何ということの裾野が広がっていくのではないかなと思っております。

【市長】 ボランティアセンターからの呼びかけをもっとしてほしいというご意見ですね。

【高齢福祉課長】 高齢福祉課の山岡でございます。ご意見ありがとうございます。ボランティアセンターでは、「おせったい通信」という情報誌、それからホームページなどでの情報提供、またボランティア登録や活動紹介などの相談を行うボランティアコーディネーターを4名配置させてい

ただいています。その中でさまざまな情報提供を行っています。発信方法が5つほどございます。まずは先ほど申し上げた月1回のおせったい通信、そしてボランティアフォンというボランティアの情報システム、そしてホームページ、そして市内4大学のボランティアセンターやボランティアサークルへの訪問、そしてボラカフェでございます。この5つをもってできるだけ裾野を広げていきたいと考えています。

【市長】 ボランティア情報誌のおせったい通信は、制作部数4,000部で色んなところに配っているみたいですが、ボラカフェの資料とか携帯電話を使ってボランティア活動に参加というボランティアフォンとか、さまざまな取り組みをしている資料として持ってきています。今までのご意見を聞いて学生さんから「届いていますよ」とか「こういうふうにしてもらったらいいな」とか、そのあたりの若い方のご意見はありますか。

【男性】 聖カタリナ大学ボランティアセンターのセンター長をしています。紙よりは今のボランティアセンターメンバーはパソコンとかでの情報のほうが見やすいので、紙で配るよりはパソコンで情報を知らせたほうがわかりやすいのではないかなと思っています。

【男性】 私はボランティアさんを一番多くお願いをしているのではないかと思います。作業所をやっているとして、先ほど小学生の教育についての意見がありましたが、ちょうど福音寺に作業所があった平成14～15年頃に、200メートル離れたところに福音小学校がありました。その校長先生がちょうど同級生の奥様で交流があって、作業所で6年生を体験させてもらえないかと言われて私どもも喜び、6年生の4組の全生徒に2度ずつ来てもらいました。作業所では、煎餅セットをつくっているのですが、1つ製作しても内職仕事ですから3円です。生徒が「タオルを売ったらいくらくれる。」と言うから「100円あげるためには、ここにあるのを100枚以上売ってもらわないと100円にはならないよ。だから家に帰って小遣いをちょうだいと安易に言わないでよく考えてから言ってくださいよ。」と言いながら、作業所の利用者と一緒に作業をしていただきました。その後、卒業式に招かれて行きましたら、120名の中で3名のお子さんが、将来は障がい者施設で働きたいというご意見がありました。校長が「ここのご家庭は障がい者の方はいらっしゃらないので、おそらく作業所で体験したことがそういう気持ちにさせたのだろう」とおっしゃいました。私どもの車は24時間テレビの派手な車ですが、手を振ってくれる女の子がいて、何でだろうと思ったら、作業所で体験したあと卒業して桑原中学校へ行った生徒さんでした。次に済美高校のところでも手を振ってく

れる。そのときに体験した子が成長して高等学校へ行っても作業所の車を見たらやはり手を振ってくれていたのです。頭の中には施設での体験や障がい者のことも残っていたのでしょう。前からボランティア運営委員会で意見として言っているのは、車いす体験やガイドヘルプなどの体験学習をやっていますが、やはり障がい者と直に接していただくことが一番理解が深まるということです。車いす体験も身体障がい者の方がされていますが、同じ車いすに乗っていても脳性麻痺の子とは全然違います。障がいもありとあらゆるものがあり、同じように見えてもそれぞれ個人で障がいが違うというのは直に接していただかないとわかりません。ですから体験学習の枠をもう少し広げていただいて、各施設へ体験をしに来て脳性小児麻痺や知的障がいや発達障がいなど、いろいろな障がいに対して体験をしていただけないものだろうかとお願ひしたいと思います。それと、ボランティアセンターへ常にお願ひしているのは、ボランティアさんには楽しんで活動していただくということです。今日は、障害者団体連絡協議会で「松山まつり」の練習をしていて、ボランティアさんが10名ぐらい来てくださっていますが、義務的に仕事をするのではなくて障がい者の方と一緒に楽しんでやっていただきたい。楽しんでやっていただかないとなかなか理解も進まないだろうと思います。「ふれあいの祭典」のときも舞台裏のことはボランティアさんに音響から照明まですべてお願ひをしたり、「ふれあいスポーツ大会」でも本当にたくさんのボランティアさんに来ていただいています。楽しんでやればまた行こうかなという気持ちにもなれるようで、2度、3度来てくださる方がいらっしやいまして、常に感謝をしています。

【市長】 ありがとうございます。まさに生の声を聞かせていただきました。今、市役所の中で広報と広聴に力を入れましょうと言っているんです。広報というのは、我々は良かれと思って色んな取り組みをさせていただくのですけれども、案外、我々の取り組みは知られていないところがあるんです。この前も松山市には色んな助成金のシステムがあるので、周知のために広報紙へ一覧をまとめて掲載させていただきました。我々の取り組みを知ってもらおうということで、それは広く報道するという広報です。それと広聴は皆さんの声に耳を傾けるという広聴です。我々の取り組みを知ってもらおうという広報と皆さんの声に耳を傾けましょうという広聴、このタウンミーティングもまさにそうですけれども、この2つに特に力を入れていきたいと思います。やはり我々の取り組みを知っていただくやり方も紙から色んな媒体に変わっていると思いますので、このあたりもしつかりとニーズを見極めながらやっていきたいと思ひます。

【女性】 トーンチャイムという楽器を使ってボランティア活動をしています。今、市長さんから助成金というお言葉が出ましたが、私たちのグループも運営をするにあたって助成金を申請してそれをいただいて事業展開をすることがよくあります。先日もそういうことがありましたが、そのときはユニセフさんとかが入ってくださったので、助成金をいただくことがなく運営ができました。著作権料の支払いが必要になってくる事業だったのですが、ユニセフさんと赤十字さんに収益を半分ずつ募金することによって著作権料が減額になって、とても安くお支払いすることができました。これも実際に自分が調べてみてわかったのですが、そういう情報がわかりやすいところにあると、もっと皆さんが事業展開をしやすいのかなと思っています。「おせったい通信」は毎回いいなと思って読ませてもらっています。毎回、助成金のお知らせもあって有効活用をさせてもらっています。最初に市長さんがつながりのある社会のことをおっしゃいましたが、私たちのグループにはハンディキャップがある方もいらっしゃいますし、病気ですと伏せていた方もいます。この方たちが、ボランティア活動をや始めたときに、「何か私は地域とつながっているような気がする」とおっしゃいました。やはりボランティアはそういうことなんだなと思っています。その反面、続けていた方の中には辞めざるをえない人たちが出てきています。なぜ辞めざるをえないかという、食べていくにはどうしても日中に正勤で努めなければならないし、私たちのトーンチャイムを使っている活動は練習を積み重ねてのボランティアになってくるので、お休みが続くとそこに自分が支障を生じてしまうのではないかと危惧するからです。これはなかなか解決する策はないかもしれないですけども、現状としてお伝えしたいと思っています。ボランティアセンターさんや社協さんには常日頃から大変お世話になっていて、たくさん情報を得て活動することができています。本当に深く感謝をしています。

【市長】 ありがとうございます。助成金の話は担当からお話できますか。

【高齢福祉課長】 高齢福祉課の山岡でございます。ボランティアセンターでは民間の団体が実施をしています各種の助成金情報はホームページで情報提供を行っています。また、助成金情報をまとめてA4サイズの複数枚の一覧表として作成し配布していますので、ぜひご活用いただけたらと思っています。

【市長】 ぜひ、皆さんには市役所といい距離でいてくださいということをお伝えさせていただきます。皆さんがどうかはわかりませんが、中には「市役所に言っても何も変わらない」と言う方がたまにいらっしゃいます。

そうではなくて例えば「こういうのはできないですか」と言われた場合、「そういうやり方はできないですけども、こういう例だったらあるんです」と別のやり方をご紹介することもできます。やはり皆さんの声をいただいて、現場ではこういう意見が多いので我々としてはこういう策を展開していきたいという取り組みにもつながっていくかと思っておりますので、市役所は3つの漢字で市・役・所ですが、市民の皆さんの役に立つ所で市役所でなければいけないと思っています。また、国・県・市とありますけれども、皆さんが国の役所に行くことはあまりないのではないかなと思います。県・市となると本庁と支所を含めて市役所に行かれるのが一番多いと思います。ときには良かれと思ってやっても皆さんから厳しい声をいただくこともございます。しかし、我々が皆さんとの距離の近さを手放してしまったら市役所の存在意義はないものと思っていますので、職員にもそのように話をしています。市民の皆さんの役に立つ所で市役所でなければいけないと思っていますので、皆さんも市役所とのいい距離を持っていただけたらと思います。「どうせ言っても変わらないでしょ」とか「どうせ職員はちゃんとしていないでしょ」という感じで来られるといい関係が築きにくいかなと思いますので、いいかたちを築きながら共に市民の皆さんの笑顔に向かって進めたらなと思います。よろしくお願ひします。

【男性】 愛媛大学ボランティアサークルで活動しています。サークルでは部員の任意でボランティア活動をしておりまして、僕のほうから強制して行ってもらうことができませんが、事業所のボランティア先で失礼なことやいいかげんなことはしてもらいたくないので、本当にボランティアのやる気がある人、それに応えられる人に行ってほしいのですが、人材育成が難しいと思っています。例えば、サークルでは障がい者の方の介助が活動の中心となるボランティアの依頼をいただくこともあるのですが、そういう依頼がきたときに誰に行ってもらおうかなと悩むことがよくあります。1回生の部員も多数入りまして、どういう介助方法が障がい者の方にとってよいのかを理解できている者がほとんどおらず、僕自身も筋ジストロフィーという障がいがありますが、自分と違う障がいがある方のことはほとんどわからない、どういう苦労があるのかとか困難があるのかもわかりません。最初に申し上げたように、ご要望に応えられないボランティア活動では意味がないので、大学のボランティアサークルを対象とした障がい者の方への理解を深めるような会を開いていただければと思います。今でもさまざまところで会を行っていただいていると思うんですけども、大学のサークルを対象としたようなものがあれば参加しやすいと思います。それとボランティア先で他の大学のサークルの方と一緒にさせてい

ただくこともあるんですけども、大学のボランティアサークル同士での交流がそれほどないので、ご一緒させていただいたときにはお話をして刺激を受けることもあるので、そういう機会がたくさんあればいいのかなと思います。

【市長】 大学同士のつながりは比較的すぐにできそうな感じがしますね。すでに一定の会をされているのかもしれないですけども、共に話をすることによって理解が深まる部分もあるし、連携ができることによって一層できることが広がったりということもあるかと思います。

【市民部長】 愛媛大学ということでございますが、4大学でボランティアサークルの4-Ringsというのをご存知ですか。

【男性】 名前は知っています。

【市民部長】 4大学で連携して、現在は防犯ボランティアとか清掃活動が中心のように聞いているのですが、さまざまなボランティアを対象にしているということです。ボランティアの連携をしていますので、そことお話し合いをしていただいたらと思うのですが、連絡はこちらからできますので、後にでも寄っていただけますでしょうか。ご存知のようでしたら何かそのあたりのことも教えていただければと思うのですが。

【男性】 4-Ringsは知っています。僕の大学でも4-Ringsに入っている人がいるんですけど、4-Ringsは先ほど述べられた防災や防犯とかだけなので、僕は先ほど愛媛大学の方が言ったようにもっと色んなボランティアで関わりたいなと思っている場合は、新しくつくったほうがいいのではないかなと思います。

【市長】 それもあるかもしれませんね。

【男性】 僕は愛媛大学の方の意見を聞いて、今後はつながっていききたいなと思いました。

【市長】 ありがとうございます。一つ目の問いに対してお答えできることはありますか。

【高齢福祉課長】 高齢福祉課でございます。学生間の交流や情報交換のご提案ですね。介護技術を取得するにはなかなか時間的にも難しいかと思いますが、実はボランティアセンターでは学生の方が気軽に集まりやすい、またボランティア活動の情報交換を行うボラカフェのほか、参加しやすいイベントの企画をしています。そちらに参加をさせていただくことで交流や情報交換の場ができたかと考えています。また今後もいただいたご意見に基づきまして、松山市の社会福祉協議会と連携して若い方や学生の方のボランティアの活性化や学習の場、学びの場ということを視野に入れながら企画を進めていきたいと考えています。

【市長】 松山の特徴で4年制大学が4つもあります。専門学校の数、20だったと思います。他の市や町から「松山市さんは大学があっいいですね」とうらやましがられるのですが、他の市や町には大学や短大がないところも多いですよ。4つもあるところは珍しいです。4年制大学が4つで若者人口が2万人だったと思います。今、若い世代の方に例えば福祉の知識を持ってもらうのはすごく大事なことです。長く活動をしていただけてます。例えば南海トラフを震源とした大きな地震が心配をされていますけれども、防災の知識を持ってもらうとすごく長く活動をしていただけるので非常にありがたいです。ですから、各大学さんと連携をさせていただいて、さまざまな取り組みをさせていただいているのですが、福祉の面ももう少し掘り下げることができるのではないかなと感じたところです。先ほど言われたように、やはり教育というのはすごく大事な、我々のときに比べると福祉に関する教育はされるようになってきているのだなと頼もしく感じたところです。福祉面での教育の取り組みも広げていければなと思いました。

【女性】 精神保健ボランティアグループの代表をしています。よろしくお願ひします。一口で申し上げるのは難しいのですが、今日お話をさせていただきたいのは、精神障がい者の方々に対する啓発活動の重要性についてです。私たちの団体では精神障がい者の方たちの社会参加をメインに活動をしてきました。私たちに期待されている中の1つである啓発活動、障がい者の方と市民との架け橋になる市民ボランティアとしての活動が重要になってきていると思います。その活動として3つあり、1つ目は自分たちの活動を報告するための情報誌の発行で、毎月発行をしています。2つ目は精神障がいを知っていただくための「精神保健のボランティア講座」の開催です。市民の方に知っていただくために、6年ほどは社協で主催をしていただきまして講座を開催されましたが、それ以降は打ち切りとなっています。これでは啓発ができず、新しいボランティアさんの確保ができません。そのため、私たちが自前で講座を開催してまいりました。多いときは40人から50人ぐらいの方の申込みがあり講座が開けていたのですが、最近、長期不況の影響でしょうかボランティア講座を開いても参加者がいません。平成24年からは講座が開けない状況となっています。参加者がいないと、私たちのボランティアグループに新しく入ってきてくださる方も減りますので、それに伴い会員数が半減し、広報誌の発行数も半分ぐらいになっている状況です。広報誌は多いときは500～600部を発行していましたが、今は半分ぐらいの発行数です。私たちの活動

の3つ目の啓発活動としては、関係機関等の啓発活動に協力をするということが大事な役目であると思うんです。愛媛県では、本年3月に障害者計画第4次および第4次障害福祉計画が策定され、また松山市でも第4期障害福祉計画を策定されています。その中に精神障がい者に関わる事項としまして、精神科病院から長期で入院をされている方々の地域移行支援、つまり退院促進がメインになっています。推進が数値目標とともに書かれています。これらの目標を達成するためには、地域で暮らすための社会資源の確保とともに、地域住民の方々の理解というのが欠かすことができないと思っています。松山市にあっては、長く市民の心の健康づくりを目的に「こころの健康フォーラム」を開催されていまして、精神保健福祉の啓発事業に長く努めてこられたということで深く敬意を表したいと思えます。また、私たちも運営委員であったり運営幹事としてそのフォーラムに長く関わらせていただいています。そういったところに参加することによって市民ボランティアの存在を皆さんに知っていただけるということで、とても感謝しています。この事業では、平成21年度から大きなイベント型のフォーラムに加えて、「地域フォーラム」を地域の社会福祉協議会や公民館の方々と一緒にお話し合いをしながら開催させていただいています。その中で地域の方々とお話しする機会が大変増えまして、地域の社協の会長さんのご意見としましては、このフォーラムを開くまでは精神障がい者の方の地域移行支援とか退院促進という言葉が知らなかったということなんです。このフォーラムで運営委員と関わることによって知ることができたので、地域でどのように障がい者の方々を受け入れることができるのかを考えていきたいと言ってくれました。そういうことなので、ぜひこの地域フォーラムを長く続けていただきたいし、地域の方々が理解をするためには長いスパンで考えて継続していただけたらと思っています。

【保健予防課長】 保健予防課の花山です。精神保健ボランティアの皆さんにはグループ発足後、イベントへの協力やデイケアでの活動、それから通信物の発行など積極的な活動を展開されていて、こちらもいろいろとご協力をいただいています。こういった活動の継続のためにも新しいメンバーの加入のためにも、ボランティアの養成や育成は必要と思っています。今後、養成講座につきましては、社会福祉協議会など関係機関と協議をしながら検討をしていきたいと考えています。また、当事者が参加できる、地域での「こころの健康フォーラム」を年に2回ほど現在も続けて開催していますが、今後も精神障がいのことを広く理解していくためにも、社会福祉協議会や事業所とも連携をしながら、啓発活動をこれからも継続して

努めていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

【女性】 聖カタリナ大学から参りました。日々生活の中で地道に活動されるボランティアさん、そして専門職である社会福祉協議会の方など、行政の中にはソーシャルワーカーや社会福祉士の登用が進んでいるなどは思いますが、まだまだ十分ではないと思います。つなぎ役、仲介役でもありますので、色んな方面で登用されていくことが期待されると思っています。もう1点ですが、残念ながら今は、福祉のイメージが虐待とか事件がメディアで取り上げられる中で非常に悪いと思います。日々地道に活動し、福祉活動に真摯に向き合っておられる方があまり取り上げられないこと、あるいは人と触れ合うことが楽しいという思いがあまり取り上げられないことが気になります。もっとピックアップできるような情報とか機会がたくさんあればいいのかなと感じているところです。

【市長】 市民の方に福祉に関する情報を知っていただいて、正しく理解していただくのが大事なのではないかと思います。私事になるのですが、私の前の仕事は南海放送のアナウンサーでしたので、土曜日～日曜日に放送される24時間テレビを、20年ぐらい担当させていただきました。真夜中にあるのでしんどいですが、色んな方が募金を持って来てくださるので、できるだけ会場でお受けをしようという活動をしてまいりました。20年続けさせていただいたので、毎年、色んな知らなかったことを知るようになり良かったと思います。知らないよりは知っていただくことが大事かなと思いますので、教育での会議の場面がありますので、教育の場で果たせることもあると教えていただきましたので、意見を述べさせていただいたらと思います。

【女性】 愛媛大学から参りました。私が大学時代から続けさせていただいているボランティアが現在もあるのですが、皆さんに喜んでいただけて一生懸命動くことで自分も得るものがたくさんあると感じています。私は社会人1年目ですが、私自身は職場の理解もあり、続けていくことができますが、あまり理解が得られなくて行けなくなったという方もいます。私の周りでも、1年目となると仕事を覚えなければいけないということもあり、なかなか出る回数も減ってきたり、結局ボランティアに行けなくなったというお話も聞きます。そこで、職場や企業自体の理解がもっと深まる機会があればいいなと考えています。

【高齢福祉課長】 企業向けのボランティア体験学習を行っています。先ほどお話した市内の小中学生対象の福祉体験学習と同様の内容で、企業に

赴いて福祉についての知識を深めるような体験をしていただいています。平成26年度実績ですが、企業や団体19者について1,041名の方に福祉体験学習を受講していただいています。受講することを一つのきっかけとして、企業の福祉に対する理解の促進が深まることを期待しています。

【女性】 小中学校や企業さんへの体験学習のお話が出ましたが、市役所の職員さんは車椅子の押し方とか手話・点字の研修はされているのでしょうか。市役所の窓口に行かせてもらったときに、お年寄りの方が同じことを4回も5回も言っていることを、何回もうなづきながら丁寧に対応している窓口の職員を見て素晴らしいなと思っています。しかし、障がいは同じ視覚障がいでもみんな全くケースが違います。障がい者が来られたときに一人一人に、100%の対応はできないと思いますが、何かそういう研修は定期的に行っているのでしょうか。

【高齢福祉課長】 松山市役所の職員は、新規採用職員研修の中で福祉施設の体験学習に行っています。車椅子に乗られている方が困っている、目が不自由な方、お年寄りを含めてそのような方が困っているときに、市の職員が何も対応の仕方がわからないのでは困りますので、まずは基礎知識ということで市内の福祉施設に職員が行きまして、研修を受けています。

【市長】 平成24年7月から福祉総合窓口を別館の1階に開設しています。松山市役所は会議室を外のオフィスビルに借りるぐらいスペースは狭いので、かなり難しい話でしたが、福祉面でのワンストップサービスのために福祉総合窓口をつくらせていただきました。松山市は全国でもいち早くワンストップサービスを導入しましたが、市民課へ戸籍をとりに来るとか住民票のこととか保険の手続きなどを1カ所でできます。市民課のワンストップサービスはかなり早く導入したのですが、福祉関係の申請や相談でもワンストップを行うべきと考えました。高齢のおじいちゃんおばあちゃんが来られます。また、お父さんお母さんが赤ちゃんをだっこして来ることもあります。障がいのある方がお越しになるケースもございます。そういう方に、「その課は別館の3階なんですよ、3階に行ってください。4階行ってください。いやいや、本館の2階です。」などというのは不親切だと思いました。これが大方針です。できるだけ親切にというのが松山市の方向ですけど、まだまだソフト・ハード面でできることがあると思いますので、また磨いていきたいと思っています。

【女性】 松山市ボランティア連絡協議会の事務局長を昨年までさせてもらっていました。連絡協議会では、松山市も中予地区も県ボラも一緒に研

修会をする機会がたくさんあって「ボランティアをしてよかったことは」と聞くと、たくさん意見が出ました。また、「どんな問題があるか」と聞くと「ボランティアをしてくださる人が少なくて、特に男性の参加が少ない」というのが必ず問題で挙がってきます。それで勝手に考えたのですが、市役所の職員さんはたくさんいらっしゃるじゃないですか。退職する人もたくさんいらっしゃるのでも退職の説明をしますよね。退職金のこととか、その後どうしたらいいとか。その中に、定年後の社会参加としてこういう活動もあることを紹介していただくとか、こちらから行ってしゃべらせてもらうことができたらいいと思います。きっと興味のある人はボランティアセンターに行きますが、何をしようかなと迷っていたりする方はちょっと手が出ないと思うんです。そこで、松山市役所さんや、松山地区の大きな企業さんなど色んなところでそういうことを紹介できる場ができたらすごく嬉しいと思います。

【市長】 実は市民部で「還暦交流集会」という行事をやり始めていて、55歳で退職される方もいらっしゃいますけど、60歳で退職をした方に社会参加をしていただくことを応援することが大事だと思い、始めています。色んなブースを設けて、冒頭申し上げたように、家で閉じこもりっきりになるのではなくて、こういう社会参加の仕方もあるんですよという周知を行って、つながるきっかけをつくり、防犯や子育てや介護など、皆さんの持っている知識と経験を社会に生かしていただき、自発的な活動のきっかけにしてもらうためのイベントです。皆さんに参加してほしいので還暦世代になりました「中村雅俊さん」や「研ナオコさん」にお越しいただきました。これからもいろいろ考えていきたいと思っています。

【保健福祉政策課長】 貴重なご意見ありがとうございました。何ごとについてもきっかけづくりが非常に大切だと思います。市の職員に限らず、一般の市民の方についてもきっかけづくりが大切なので、どういう手法がいいのかを考えさせていただきたいと思っています。

【男性】 僕の通っている聖カタリナ大学の大学のボランティアセンターは今年から地域活性化を目的として活動しています。大学は北条地域で、北条地域は学生と住民が関わる機会が今までありませんでした。松山市も北条に目をなかなか向けてくれなかったと思います。個人的には、施設・サロンのものをつくりたいなと思っています。特に北条地域は松山市の中でも高齢化率が高くて、関わる中で一人暮らしの高齢者もたくさんいるんです。学生とその地域住民の方が、関わりを持つことによって、高齢者の方はいろいろ生きがいを見つけ、僕たちもたくさん学ぶことがあると思

うので、それができるようにサロンのなものをつくりたいと思っているんですが、どうしたらいいでしょうか。

【高齢福祉課長】 ご意見ありがとうございます。北条地区におきましても、色んな高齢者のサロン事業や生きがいを持って生きるための事業を行っています。ご意見を参考とさせていただきまして、今後どのような学生さんをご高齢の方との接点というのをつくるか探っていきたいと考えています。持ち帰らせてください。

【市民部長】 市民部でございます。学生と地域とのつながりということでございますけれど、「まちづくり協議会」をご存知ですか。北条地区にも設立されていますが、北条地区のまちづくり協議会では、留学生との交流なども協議会の中で行っていると伺っています。地域とのつながりや接点を持っていくために、まちづくり協議会というのがございますので、そこ関わっていくことが、地域の中では一番進みやすいと思います。まちづくり協議会とお話をしていただいたらと思います。こちらでつなぐことができますので、お声がけください。お願いします。

【女性】 今日は、色んな皆様のご意見を聞かせていただいてよかったですと思っています。私は病院ボランティアをしています。実は病院の中には色んな患者さんがいらっしゃいます。足の不自由な方、目の不自由な方、耳の不自由な方、そういう方たちに対して、同じようにボランティア活動をするために、とても色んなご意見が出たことと、それに対して市がこんなにたくさん対応しているのだということと、今、初めて知りました。私たちのグループは、会員数は54名、そして平均年齢は65歳ととても高齢です。しかし、高齢でありながらも患者さんのサービスをしたい、患者さんの支援をしたいと思っています。ただ、今日私がちょっと意見を出しにくかったのは、私たちは実は病院内だけで活動しているという理由からです。ですから、皆様とはちょっと立場が違うのかなと思って遠慮しましたが、ボランティアがたくさん増えてほしいという思いは、どのボランティアさんも同じだと思います。私は団塊の世代ですが、団塊の世代にはたくさん暇を持て余している人がいるのではないのでしょうか。特に男性にもっと出てきてほしいと思います。もちろん自分の趣味も大事ですが、会社勤めをして、子育てが終わって、さあこれから自分の時間だと思って、とても楽しみにしていることもあるでしょうけれども、一応社会奉仕もしてという思いで出てきてほしいと思うので、広報してほしいと思います。こういうボランティアがあるよ、こういうことだから誰でもできるよというお知らせをお願いしたいのが1点目です。そして、2点目は研修・講座です。私たち病院ボランティアは手話にしても傾聴にしても、い

くつでもそういう講習がほしいです。みんな勉強させてもらいたいと思っています。ボランティアセンターからおせったい通信で連絡いただいて、参加させてもらっていることもあるのですが、私たちはもっとそういう場所に出てお勉強しながら、頑張りたいと思いますので、その2点をよろしくお願いします。

【女性】 私は東日本大震災を経験して愛媛県に避難している当事者グループの者です。私から言えることは当事者として、災害が起こったときに福祉的なハンディを持っている方はどうしても避難が遅くなってしまいます。そういう面で何か福祉的な取り組みとかお考えがあるのならばお聞かせいただきたいと思います。

【保健福祉政策課】 保健福祉政策課野本です。災害のときの避難に、支援の必要な高齢者や障がいがある方はかなりいらっしゃいます。そういった方が安全に避難していくために、松山市もどうしたらいいのかと検討する中で、個人情報というのが非常に問題になりました。本人の同意をいただいている方に関しては、その地域で民生児童委員さんや自主防災組織に名簿をお渡しして、その方をどのように、誰がどこへ避難させるのかというお話し合いをしていただいています。同意をいただけていない方に関しても、このままではいけませんので、松山市の場合は個人情報保護審議会で協議していただき、地域での受け皿としてきちりとした団体で名簿の取扱いを誓約できるのであれば、同意をもらってなくても出してもいいのではないかという判断の結果、平成25年にモデル的に石井地区と協定を結び、避難行動要支援者の名簿をすべてお渡しして、避難計画を立てていただくように進めています。その後、石井地区のモデル的な取り組みを検証した結果、いくつか条件があるんですが、その条件をクリアできたところには名簿をお渡しして取り組んでもらおうということで、まちづくり協議会や自治防災組織にこういう取り組みをしませんかとお声かけをして、多くの地域で取り組んでいただくよう働きかけて、これから要支援者の避難計画を広げていきたいと考えています。もし、皆さんのいらっしゃるまちでそういう声があれば、松山市はこういう取り組みを考えていることを広めていただけたらと思います。よろしくお願いします。

【市長】 私から補足をします。「松山防災マップ改訂版」というのがありまして、これが愛媛大学の防災情報研究センターさんと一緒に作成した、入魂の作となっています。色んな方に知っていただきたいので、「音声CD版」、「点字版」、「SPコード版」をつくっています。今日、聖カタリナ大学さんも来ていただけていますが、聖カタリナ大学さんとの間で災害ボランティア協定を締結したり、また、災害ボランティアを養成する講

座を設けたりして、できるだけ災害時にも対応できるようにする取り組みをこれからも続けてまいります。では、私から最後の締めをさせていただいたらと思います。本当に今日は皆さん、ご参加をいただきましてありがとうございます。さまざまご意見をいただきましてありがとうございます。私が言いたいのは、みんなが住みよい社会をつくっていきたいということです。職員にも協力をしてもらい、「1人でも多くの人を笑顔に」というスローガンを1期目も2期目も掲げています。今日、福祉に関する職員が後ろに勉強ということで聞きに来ていますが、市役所の中でも地味な作業だと思います。例えば、市役所の仕事の中では、メディアが注目してくれるような仕事もあり、そういう仕事も大事ですけども、やっぱり福祉に関する仕事は直接皆さんの笑顔につながっていく仕事でありますから大事な仕事です。大変地味なしんどい仕事でありますけれども、本当に職員が最前線で頑張ってくれていると肌身に感じています。ボランティアに無関心な人を動かしていく、不理解な人に正しく理解してもらって動かしていくというのは本当に大変な作業だと思います。でも、若い方の意見を聞かせていただいて、大変頼もしく感じました。我々のときの福祉教育とは違い、福祉に対する教育が手厚くなっているのではないかなと感じました。やっぱり訴え続けること、動き続けることが大事ではないかなと思います。行政も頑張るし、皆さんにもお力添えをいただいて動いていただかないと、不理解・無関心の層を動かしていく、理解をしていただく、みんなが住みよい社会になっていくというのはなかなか難しいことだと思いますので、これまで同様、お力を貸していただけたらと思います。最後にいつも感心をするのですが、手話通訳の方、私は結構早口だと思いますが、ずっと手話通訳の方々が交代をしながら通訳をしてくださって、要約筆記の方々も本当に動いていただいてありがたいなと思います。みんなが動いていかないと物事は前に向かって進んでいきませんので、今日のご意見をしっかりと受け止めさせていただいて、松山市としてしっかり動いていきたいと思いますので、これからもどうぞよろしく願います。今日はありがとうございました。

—了—